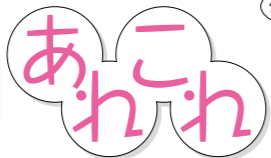
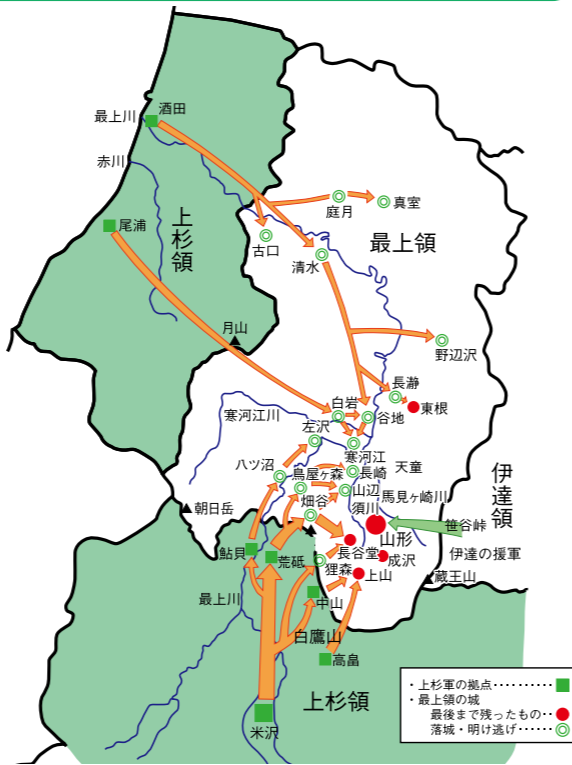


# 長谷堂城跡公園



## 上杉侵攻経路



## 難攻不落の長谷堂城

長谷堂城が初めて記録に姿を現すのは1514年の伊達氏との抗争中ですが、堅城として歴史に名を残すのは、1600年の出羽の関ヶ原と呼ばれる長谷堂合戦においてです。

長谷堂城は南北約670m、東西約400mの小規模な独立丘陵に作られていますが、主郭である頂上から城内各所への見通しがよく、主郭を頂点とした統一的な指揮命令系統を組織できる抜群の名城です。山腹には、曲輪や横矢掛り、切岸、土塁・堀などの防御施設が効果的に配置されており、巧妙に敵の侵入を防ぐ構造となっています。山を登ってみると、直江軍の侵攻を半月にわたり食い止めることの出来た、いかに堅い城であったかが実感できるでしょう。合戦の後は、平地に御殿をつくったといわれ、統治のための城郭へと移行していったと考えられています。

## 明和三年(1776)長谷堂村周辺絵図 (個人蔵)



左は、江戸時代中期に描かれた長谷堂城周辺の絵図です。中央下の丘陵が長谷堂城跡ですが、当時、樹木はほとんどありませんでした。山城として使う場合、見通しが悪くまた燃やされる危険があったので、樹木は取り払われていたのです。表紙の現在の航空写真と比べてみてください。また航空写真右上にみえる丘陵が出羽合戦の時に、直江兼統が本陣を構えたといわれる菅沢丘陵です。

## 貴重な動植物の数々

本公園の植生は、江戸時代の絵図によると、当時、樹木は生えていませんでした。今から50年ほど前の写真にも、八幡神社と長谷堂観音の境内林以外には、ほとんど樹木は写っていませんが、春日神社のシダレザクラ、阿弥陀堂(慈眼庵)のアズマシャクナゲ等は存在していたとみられます。その後、城山は振り返られることなく放置され、山は荒れてしまいました。

そこで地域が中心となって新しい里山「花の名所」にしようと、ここにサクラ等の花木を植栽し、自生するヒガンバナやシャガなどの保護・育成を続けています。小規模ながら豊かな自然に恵まれた城山にはカモシカが出没し、ドングリヤクルミの実をつける樹木の多い山中ではリスが駆け回っています。また、林内には食樹木エゾエノキが多いので国蝶オオムラサキが生息しているとみられています。

## 最上義光について知りたい方は!

もがみよしあきれきし かん  
**最上義光歴史館へ!!**

さんじゅうはちけんそうふくりんすじかぶと  
**三十八間総覆輪筋兜**

最上義光が織田信長から拝領したと伝えられる兜です。前面が破損していますが、長谷堂合戦の際に、追撃する最上義光に対して直江軍の鉄砲隊が撃った銃弾が当たったためといわれています。



- 住所/山形市大手町1-53
- TEL/023-625-7101
- 開館時間/午前9時~午後4時30分
- 休館日/月曜(国民の祝日の場合は翌日休)、年末年始
- 入館無料
- ホームページ/http://mogamiyoshiaki.jp

歴史と自然を体感!

# 長谷堂城跡公園 散策マップ



直江兼統



最上義光

## 長谷堂合戦図屏風

個人蔵

この屏風は江戸時代中期に秋田の学者戸部一愨斎正直が描いたといわれます。右隻には長谷堂城の攻防が描かれ、右手に長谷堂城主の志村伊豆守の出陣姿、左手に軍配を持つ直江兼統ほかの上杉軍精鋭が見えます。左隻には退却する上杉勢と追撃する最上軍が描かれ、中央に鉄の指揮棒をふるって猛追する最上義光、左手に鉄砲隊に守られた直江兼統が見えます。





# 長谷堂城跡公園はみどころいっぱい

## サクラの古木

全域にカスミザクラやシダレザクラ・ソメイシノの古木がみられます。特に山頂広場の南斜面にある、春日神社前のシダレザクラは優雅に咲き誇ります。



## エゾエノキ

山頂や園路にみられます。本種は国蝶オオムラサキの食樹木です。「ぜひオオムラサキを発見してください。」



## ケンボナン

園路のところどころにみられます。初夏に小型の白い花が咲き、秋に直径数ミリの果実が熟し、梨のように甘くなり食べることができます。



## フジ自生地

本沢川に面した急斜面にはフジの古木が多数みられます。5月頃に淡紫色又は白色の花を房状に垂れ下げて咲きます。



## おすすめ周遊コース(約40分)

八幡崎口(スタート)

↓ 【約5分】

① 帯曲輪 [段々畑状の平坦面]  
サクラ類 [オオヤマ・シダレ・ヤエ]

↓ 【約1分】

② 土塁 [北からの敵を防ぐ遺構]

↓ 【約3分】

③ 曲輪 [兵士の居留場]  
シャガ [山城特有の植物]

④ 横矢掛り [敵を狙い撃ち]

↓ 【約3分】

⑤ 虎口 [主郭への入口]

↓ 【約1分】

シダレザクラ [長谷堂城跡一番の銘木]

↓ 【約3分】

⑥ 二重横堀 [堀と土塁の防御施設]

↓ 【約7分】

⑦ 切岸 [人工的な急斜面]

↓ 【約15分】

八幡崎口(ゴール)



## 長谷堂城跡の遺構 ①

### 帯曲輪群

傾斜地に段々畑状に平坦面が連なる防御施設です。城郭の北西部に位置しており、上杉軍の菅沢山直江本陣跡のちょうど正面に当たる場所につくられています。



## 長谷堂城跡の遺構 ②

### 土塁

敵の攻撃や侵入を防ぐための土手のことです。この土塁は城郭北側の峰筋に位置し、比較的防御施設の少ない八幡崎口から攻める敵を意識していると考えられます。



## 長谷堂城跡の遺構 ③

### 曲輪

山の傾斜面を削って平坦に造成された区画のことです。建物を構えて寝泊りしたり、柵を立てて防備したりする機能を担っていたと考えられます。



## 長谷堂城跡の遺構 ④

### 横矢掛り

敵に対して、側面から矢や鉄砲などを放って攻撃ができるように、通路を屈曲させ、その両側に部隊を配備する曲輪を配置した防御施設のことです。すぐ上は山頂広場となります。



## 長谷堂城跡の遺構 ⑤

### 虎口

虎口とは曲輪などの各施設への出入口のことです。長谷堂城には、四角の区画を置く枡形虎口や土塁・曲輪などを屈曲させてつくる喰違い虎口があります。写真は山頂広場に通じる、一段低い四角の区画を置いた枡形虎口です。



## 長谷堂城跡の遺構 ⑥

### 二重横堀

下から攻め上がってくる敵兵を食い止めるため造られた堀と土塁です。写真は南西部に位置するもので、上段と下段にそれぞれ堀と土塁を配置した二重の構造となっております。



## 長谷堂城跡の遺構 ⑦

### 切岸

人工的に斜面を削って造成した、崖状で急斜面の防御施設です。削った土砂を盛って平坦な曲輪をつくることもあります。写真の切岸は高度差が10mもある、長谷堂城では最大規模のものです。



## 長谷堂城跡の遺構 ⑧

### 水堀

発掘調査によって水堀が確認されました。水堀は長谷堂城を一周し、場所によっては町場を囲むように二重になっている箇所もあります。



## 市指定保存樹林

八幡神社の境内林でモミ、スギ、ドイトウヒで構成されています。巨樹林で地域環境の向上に寄与しています。



## イヌザクラ

西側斜面に数本みられます。4・5月にブラシのような白い花を多数つけるサクラらしくないサクラです。



## ヒガンバナ群落

南斜面に群落が分布しています。9月に朱赤色の花をつけます。葉は花のあとに出て越冬して初夏に枯れます。



## シャガ群落

曲輪や急斜面に群落が分布しています。5月上旬に紫斑白色の花をつけます。もともとは、敵が斜面を登る際にシャガの葉で滑って攻めにくいようにするため植えたと考えられています。



## アズマシャクナゲ大株

阿弥陀堂(慈眼庵)の境内に残るアズマシャクナゲの大株(樹高2.5m葉張2.3m)。花は5月上旬に咲きます。この辺では珍しい大株です。



## ケヤキの大木

南西斜面や山頂にケヤキの大木が残っています。



## クヌギ

曲輪の一部に生息しております。実は代表的なドングリの一種です。

